

長野県新産外来種の報告

柳澤 衿哉*

1 はじめに

長野県外来植物目録 2018 年版（長野県外来植物編纂委員会 2018）において長野県で 621 分類群の外来種が見いだされたことが報告された。筆者は主に市街地、宅地や畑地の植物を観察してきたが、その中で目録に記載されておらずその後の研究報告にも記載されていない植物について数がまとまってきたため報告したい。

2 新産外来種

一覧について、学名は植物和名 - 学名インデックス（米倉・梶田）通称 Ylist に準拠した。既に日本に広く帰化していると扱われている種や、偶発的でなく定着していると現地の状況から思われた種を以下に挙げる。

・テマリツメクサ（マメ科）

Trifolium aureum Pollich 図 1

本種は日本帰化植物写真図鑑第 2 巻（植村ほか 2010）にて長野県においても採取されていることのみが触れられているが、他に報告が見つからないため本稿にて生育地も含めて報告する。

ヨーロッパ原産の多年草。本種は同属のクスダマツメクサ *Trifolium campestre* Schreb. に類似しているが、クスダマツメクサは 3 出複葉のうち頂小葉の柄が側小葉の柄より長く明瞭となっていて羽状複葉型なのに対し、テマリツメクサは短く不明瞭で掌状複葉型となる点で判別できる。またクスダマツメクサは花序の花数が 20-30 に対して、本種は 30-40 となっており花序が大きい。一年草のクスダマツメクサに対して本種は多年草で、全体的に株も大きく豪勢な傾向が強いように思える。

木島平村、やまびこスキー場跡地の草地内にて、クスダマツメクサに類似するシャジクソウ属植物を発見し、のちに再同定したものが本種であった。その後長野市飯綱高原スキー場の駐車場付近においても本種の生育を発見した。

本種はクスダマツメクサに類似しているため過

去に誤同定されていたのではないかと推測し、NAC 収蔵のクスダマツメクサ標本について再同定作業を行ったところ 13 点がテマリツメクサであることがわかった。信州大学標本庫においてもクスダマツメクサの標本を確認したところ、確認できた 8 点のうち 1 点、またクスダマウマゴヤシ×ムラサキウマゴヤシと書かれていた標本がテマリツメクサであった。

クスダマツメクサが平野部の河川沿いの草地や荒地に生息する傾向があるのに対し、テマリツメクサは山地の林道沿いやスキー場等の草地に生育する傾向がある。

今後も生育状況の把握や、過去の標本の再同定作業を行っていく必要がある。

[標本] 下高井郡木島平村 上木島 池の平 やまびこの丘スキー場跡 alt. 690m, 柳沢衿哉 2020. 06. 04 NAC198292, 198293; 長野市 富田 飯縄高原スキー場 第 3 駐車場付近 alt. 1080m, 柳沢衿哉 2020. 08. 04 NAC 198411, 198412; 北佐久郡御代田町 出水 林道 1500m 地点, 花里弘 1990. 08. 25 NAC150689 ほか; 上水内郡 飯綱町 リゾートスキー場, 永井茂富・戸谷弥生 2008. 07. 27 NAC151778 ほか; 飯山市 豊田高源院, 永井茂富 2009. 05. 15 NAC 155288; 南佐久郡南牧村 飯盛山 alt. 1500m, 中山洸 2009. 07. 23 NAC160947; 東筑摩郡四賀村 会田（現 松本市会田）, 横内斎 1976. 08. 01 SHIN91762; 佐久市 くつ沢, 山崎惇 1983. 08. 09 SHIN107604.

・トガリバツメクサ（マメ科）

Trifolium angustifolium L. 図 2

ヨーロッパ原産の多年草。名前の通り小葉が線形で先端も鋭頭で、国内で報告されているシャジクソウ属としては特異な姿である。花穂は長卵形、果実は硬質な五本の棘を持ち長毛が多く、ふわふわして見えるが熟した果穂を握ると痛い。散発的に市街地の環境に見られるとされている。

長野市内の幹線道路脇に設けられた緑地帯に、クサフジ類やイネ科の草に紛れるように生えていた。[標本] 長野市 青木島町 青木島乙 丹波島橋取り付け道路 alt. 357m, 柳沢衿哉 2020. 06. 01 NAC 195994, 195995.

* 長野県環境保全研究所
〒381-0075 長野県長野市北郷 2054-120

・ルリニワゼキショウ (アヤメ科)

Sisyrinchium graminoides E.P.Bicknell 図 3

別名アイロニワゼキショウ、ヒレニワゼキショウ。北アメリカ原産の多年草。ニワゼキショウ属の分類は難しいが、神奈川県植物誌(神奈川県植物誌調査会 2018)、帰化 & 外来植物見分け方マニュアル 950 種(森明彦 2020)を参考に花卉の青みが強く先が芒状によく尖る点、花茎の翼が広く縁は透明の鋸歯となる点などで見分けた。

長野県内では 2 箇所、いずれもスキー場下の湿った草地にて採取している。後に NAC のデータベースを確認したところ、アイロニワゼキショウ名義で 2 点の県産標本が存在していた。長野県外来植物目録 2018 年版においてはいずれの名称でも記載されていなかったの、ここに纏めて記載する。

[標本] 上水内郡飯綱町 川上 いづなりリゾート スキー場下 alt. 920m, 柳沢衿哉 2020. 06. 12 NAC197036; 下高井郡木島平村 上木島 池の平 やまびこの丘スキー場跡 alt. 690m, 柳沢衿哉 2020. 06. 04 NAC198327, 198328; 上水内郡戸隠村 田頭(現長野市戸隠栃原 田頭) alt. 850m, 藤原陸夫 1997. 05. 25 NAC113608; 長野市浅川, 永井重富 2009. 05. 09 NAC155957.

・ノハラジャク (セリ科)

Anthriscus caucalis M.Bieb. 図 4

ヨーロッパ原産の一年草。同属にはハーブとして栽培されるチャービル *Anthriscus cerefolium* (L.) Hoffm. がありよく似ている。チャービルは甘い香りがあるが本種は青臭い不快臭がある。葉の裂片先端が鈍頭で丸みがある点、葉には軟毛がまばらに生え新葉では密生する点が特徴となっている。

長野市内、2019 年度に洪水があった後の千曲川堤外の高水敷にて、本種はアブラナ科やイネ科の越年草とともに生育していた。池田町の高瀬川堤外、樹林下の草地においても 2021 年に生育を確認している。また長野市内の麦畑で 2019 年に採取しオヤブジラミと同定した標本を再検討したところ、葉の裂片の尖り方が弱い点、果実の棘が短い点により本種と同定できた。

今後河川敷や麦畑の調査を詳しく行くと、更に様々な場所で発見される可能性があるだろう。

[標本] 長野市 若穂川田 関崎 千曲川河原 alt. 344m, 柳沢衿哉 2020. 05. 15 NAC196228; 北安曇郡池田町 池田 高瀬川河原 alt. 602m, 柳沢衿哉 2021. 05. 31 NAC198587-198590; 長野市

篠ノ井西寺尾 alt. 351m, 柳沢衿哉 2019. 05. 28 NAC191692.

・シンジュボシマンネングサ (ベンケイソウ科)

Sedum pallidum M.Bieb. var. *bithynicum* (Boiss.) 図 5

ヨーロッパ東南部～小アジア原産の多年草。この種に触れた文献はまだ少ないが、富山県中央植物園研究報告 13 号(大原・井上 2018)にて発見と同一の経緯が詳しく記述されている。円筒状の葉に白い花を付ける外来のマンネングサ属として、長野県では既にウスユキマンネングサが報告されている。花卉数がウスユキマンネングサは 6 枚の花が多くを占めるのに対し本種は 5 枚の花が多くを占める点にて判別が可能であった。

住宅地や幹線道路沿いの舗装の隙間では他の外来マンネングサ類と同様に度々見られ、そこまで珍しくないように感じる。

[標本] 長野市 大町 alt. 334m, 柳沢衿哉 2021. 06. 02 NAC198574; 中野市 吉田 中野バイパス alt. 370m, 柳沢衿哉 2021. 06. 03 NAC198577.

・ウラジロチチコグサ (キク科)

Gnaphalium spicatum Lam. 図 6

南アメリカ原産の多年草で、既に全国的に帰化している。同属の類似した外来種としてチチコグサモドキは県内に広く帰化し、ホソバノチチコグサモドキもわずかに報告がある(長野県外来植物編纂委員会 2018)。

ウラジロチチコグサはチチコグサモドキのように丸みのある葉だが、葉裏はより毛を密生して明白色となる。葉表はチチコグサのように毛が少なく濃緑色で艶のあるものが多いが、チチコグサモドキのように軟毛の多いものも稀にあり属内で雑種を作っている可能性もある。

長野駅近くの公園にて、芝生の中に紛れて数株が生育していた。市街地の公園や植え込みは本種が好む生育環境のため、今後より広がっていく可能性がある。本種に類似するウスベニチチコグサも、今後発見される可能性を考慮する必要があるだろう。

[標本] 長野市 栗田 長野駅東口公園 alt. 358m, 柳沢衿哉 2019. 08. 18 NAC196228.

・キバナオドリコソウ (シソ科)

Lamium galeobdolon (L.) L. 図 7

東ヨーロッパ～西アジア原産の多年草。草姿の印象はオドリコソウに似るが、花があれば鮮やかな黄

色なのですぐに判別できる。またオドリコソウと比べ、葉先がつき出てとがらない。グラウンドカバーとするため園芸用に導入され、葉に銀灰色の斑の入るタイプがよく栽培される。

環境保全研究所近くの林道沿いにて、銀灰色の斑入りのタイプがカラマツ林の下に一面に広がっていた。近くに住宅などはなく栽培されている様子もない。捨てられた園芸用土などから広がったものかと推測したが、定かでない。

〔標本〕長野市 北郷 alt. 1050m, 柳沢衿哉 2021. 05. 23 NAC198571.

・ヒメマツバボタン (スベリヒユ科)

Portulaca pilosa L. 図 8

熱帯アメリカ原産の一年草。園芸用に栽培されるマツバボタンの母種に当たり、草姿はほぼ変わらないが花が直径 1cm ほどと小さく色も紅紫色のみ。乾燥に強く、日当たりのよい道端に見られる。

長野市内の郊外の宅地において、舗装の隙間を覆うように並んで群生していた。

〔標本〕長野市 川中島町御厨 alt. 355m, 柳沢衿哉 2021. 10. 15 NAC198584.

・シマスズメノヒエ (イネ科)

Paspalum dilatatum Poir. 図 9

南アメリカ原産の多年草で、日本の関東以西の暖地に広く帰化する。在来種のスズメノヒエ、スズメノコビエは円盤状の小穂が 2 列に並び総に着くのに対し、こちらは 3～4 列となっていて遠くから見ても太く豪壮で違和感がある。また小穂は水滴型寄りで先が尖り、縁に軟毛が生える。

長野市内平野部の宅地近い休耕地の畦にて多くの株が繁茂し、草刈りを免れたものは穂を伸ばしていた。暖地性の種とされるが、県内で比較的暖かい長野市の平野部にて繁殖していることが分かった。今後も県内の標高の低い平野部では確認される可能性が高いだろう。

〔標本〕長野市 稲里町田牧 alt. 354m, 柳沢衿哉 2021. 06. 20 NAC198586.

・クサキョウチクトウ (ハナシノブ科)

Phlox paniculata L. 図 10

北アメリカ原産の多年草で、園芸用に広く栽培される。葉は対生し披針形で、夏に白、赤、紫など様々な色の合弁花を円錐花序に付け、印象としてはナデシコの仲間やニチニチソウにも似るように感じる。

木曽町開田高原の河畔林において、林縁近くに群生していたのを発見した。近くに田畑はあるが栽培はしておらず、偶発的に逸出したとしても暫く定着している様子に見えた。また長野市の飯綱高原の道路沿いにおいても十株ほどの群落が見られた。高温多湿に弱く冷涼な環境を好むとされ、標高の高い宅地や観光地付近では野生化した個体も確認できる可能性が高い。

〔標本〕木曽郡木曽町 開田高原末川 alt. 1070m, 柳沢衿哉 2020. 09. 14 NAC198151; 長野市 北郷 alt. 1080m, 柳沢衿哉 2021. 08. 22 NAC199395.

・アツミゲシ (ケシ科)

Papaver somniferum L. subsp. *setigerum* (DC.) Arcang. 図 11

北アフリカ原産の一年草で、現在は世界に広く帰化し日本全国においても散発的に発生する。草全体に軟毛は生えず点々と肉質の剛毛が生える。葉は茎を抱き、荒い重鋸歯があり深く裂けることはない。蕾を覆う萼に肉質の剛毛がよく並びトゲトゲする姿は、ほかのケシ類と違い特異である。花弁は紫色で付け根部に黒い紋が入る。

2020 年 4 月 30 日、長野市内の農地に近い集落の路傍にて 10 株ほどが点々と生育するのを発見した。長野市保健所に連絡した所、そちらでもアツミゲシと確認され拔除された。翌年の生育は確認していない。

本種はあへん法にて植物体の所持が制限されるため、標本は作製せず写真のみ記録している。詳細な場所も伏せる。

3 わずかに逸出する種

その他、栽培品が植栽場所から近傍へわずかに逃げ出した程度と思える種に関しても標本を採取し記録してきた。植物誌に記載すべきと言えるほど定着しているとは未だ言い難い種が多いが、今後の動向を確認するためにも参考に記載しておきたい。

・クロタネソウ (キンポウゲ科)

Nigella damascena L.

〔標本〕長野市 稲里町下氷鉋 alt. 353m, 柳沢衿哉 2021. 06. 01 NAC195978; 長野市 稲里町中央 alt. 354m, 柳沢衿哉 2021. 06. 09 NAC196605; 下高井郡山ノ内町 平穏 上条 alt. 540m, 柳沢衿哉 2021. 06. 04 NAC198312.

・キャットミント (シソ科)

Nepeta × faasseni Bergmans ex Stearn

[標本] 長野市 稲里町中氷鉋 alt. 356m, 柳沢衿哉 2020. 06. 09 NAC198081; 安曇野市 豊科田沢 alt. 557m, 柳沢衿哉 2021. 05. 20 NAC198582, NAC198583.

・シロミミナグサ (ナデシコ科)

Cerastium tomentosum L.

[標本] 須坂市 米持 alt. 350m, 柳沢衿哉 2020. 06. 04 NAC198259; 下高井郡山ノ内町 平穏 上条 alt. 540m, 柳沢衿哉 2021. 06. 04 NAC198323.

・カナダシュウメイギク (キンポウゲ科)

Anemone canadensis L.

[標本] 長野市 富田 県道 404 号 栃原北郷信濃線 沿い alt. 1090m, 柳沢衿哉 2019. 06. 18 NAC192076.

・ヒメツルソバ (タデ科)

Persicaria capitata (Buch.-Ham. ex D.Don) H.Gross

[標本] 長野市 南長野南郷町 alt. 368m, 柳沢衿哉 2020. 09. 27 NAC199396.

・ワタイヌゴマ (シソ科)

Stachys olympica Poir.

[標本] 長野市 篠ノ井布施五明 alt. 359m, 柳沢衿哉 2020. 05. 22 NAC195693.

・ニオイアラセイトウ (アブラナ科)

Erysimum cheiri (L.) Crantz

[標本] 長野市 若穂保科 alt. 365m, 柳沢衿哉 2020. 05. 12 NAC195712.

・ホソバコウオウソウ (キク科)

Tagetes tenuifolia Cav.

[標本] 長野市 篠ノ井布施高田 alt. 356m, 柳沢衿哉 2020. 01. 03 NAC194298; 上田市 国分 alt. 470m, 柳沢衿哉 2020. 09. 21 NAC197794.

・オトメセンダングサ (キク科)

Bidens aristosa (Michx.) Britton

[標本] 下水内郡栄村 界内池 alt. 360m, 柳沢衿哉 2019. 11. 13 NAC194022; 北安曇郡小谷村 北

小谷 小谷温泉 alt. 270m, 柳沢衿哉 2019. 11. 04 NAC194108.

・キクヂシャ (キク科)

Cichorium endivia L.

[標本] 長野市 稲里町田牧 alt. 355m, 柳沢衿哉 2019. 08. 18 NAC192932.

・ニワフジ (マメ科)

Indigofera decora Lindl.

[標本] 長野市 篠ノ井布施五明 県道 86 号 沿い alt. 370m, 柳沢衿哉 2020. 05. 22 NAC195662.

・ハゼラン (スベリヒユ科)

Talinum triangulare (Jacq.) Willd.

[標本] 北安曇郡小谷村 北小谷 小谷温泉 alt. 260m, 柳沢衿哉 2019. 11. 04 NAC194195, 194231.

・クロバナフウロ (フウロソウ科)

Geranium phaeum L.

[標本] 上田市 真田町傍陽 地蔵温泉周辺 alt. 980m, 柳沢衿哉 2020. 06. 01 NAC196438.

・セリバオオバコ (オオバコ科)

Plantago coronopus L.

[標本] 長野市 稲里町田牧 alt. 355m, 柳沢衿哉 2020. 06. 09 NAC196592.

5 引用文献

- 長野県外来植物目録編纂委員会 (2018) 長野県外来植物目録, 長野県外来植物目録編纂委員会.
米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名 - 学名 インデックス」 (YList), <http://ylist.info> (2022 年閲覧)
- 植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹 (2010) 日本帰化植物写真図鑑第 2 巻, 全国農村教育協会
- 神奈川県植物誌調査会 (2018) 神奈川県植物誌, 神奈川県植物誌調査会
- 森明彦 (2020) 帰化 & 外来植物見分け方マニュアル 950 種, 秀和システム
- 大原隆明・井上さち子 (2018) 富山県で野生化したシンジュボシマンネングサ (新称), 富山県中央植物園研究報告 No.13 p23-26



図 1: テマリツメクサ (*Trifolium campestre*)
NAC198293



図 2: トガリハツメクサ (*Trifolium angustifolium*)
NAC195994

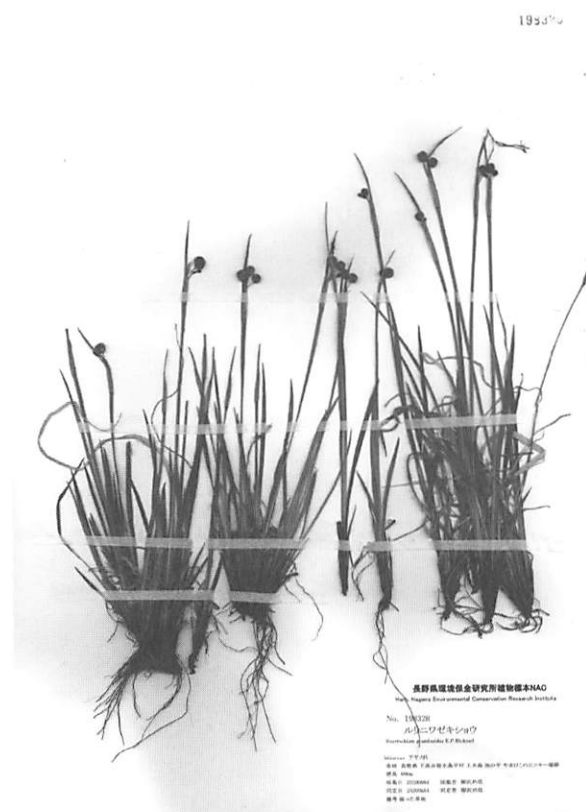
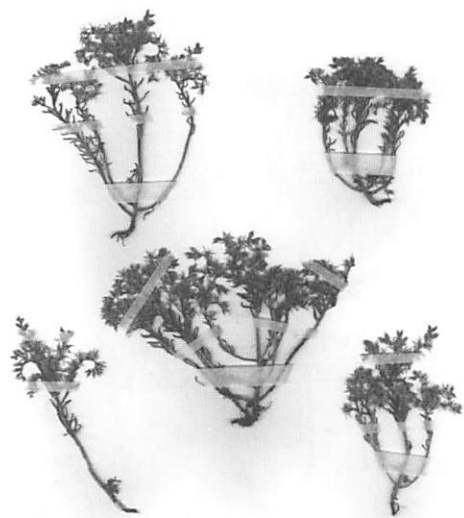


図 3: ルリニワゼキショウ (*Sisyrinchium graminoides*)
NAC198328



図 4: ノハラジャク (*Trifolium angustifolium*)
NAC198587

198577



長野県環境保全研究所植物標本NAC
Herb. Nagano Environmental Conservation Research Institute
No. 198577
シンジュボシマンネンゲサ
Sedum pallidum Nakai var. *bithynicum* (Max.)
Flower color: 白(花)のみ
葉色: 葉裏面: 赤褐色 花柄: 白(花)のみ
葉長: 10mm
葉幅: 5mm
花径: 2mm
採集地: 長野県 長野市 長野市 長野市
採集日: 2011/08/01 採集者: 柳澤衿哉
備考: 長野県環境保全研究所植物標本NAC

図 5: シンジュボシマンネンゲサ
(*Sedum pallidum* var. *bithynicum*) NAC198577

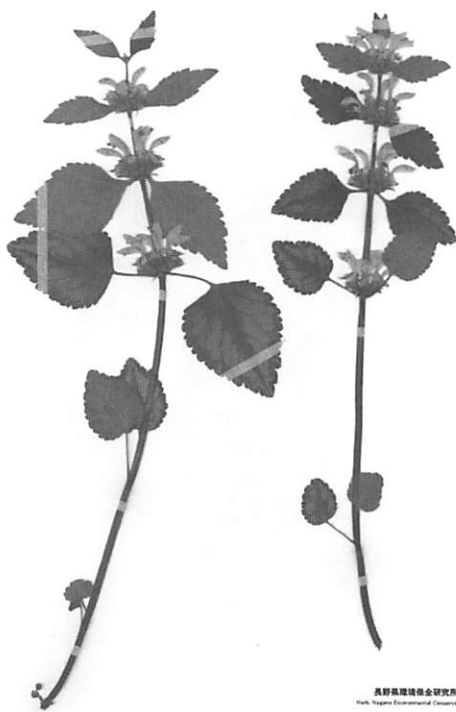
192933



長野県環境保全研究所植物標本NAC
Herb. Nagano Environmental Conservation Research Institute
No. 192933
ウラジロチチコグサ
Gnaphalium spicatum Lam.
Flower color: 白(花)のみ
葉色: 葉裏面: 赤褐色 花柄: 白(花)のみ
葉長: 10mm
葉幅: 5mm
花径: 2mm
採集地: 長野県 長野市 長野市 長野市
採集日: 2011/08/01 採集者: 柳澤衿哉
備考: 長野県環境保全研究所植物標本NAC

図 6: ウラジロチチコグサ (*Gnaphalium spicatum*)
NAC192993

198571



長野県環境保全研究所植物標本NAC
Herb. Nagano Environmental Conservation Research Institute
No. 198571
キバナオドリコソウ
Lamium galeobdolon L.
Flower color: 白(花)のみ
葉色: 葉裏面: 赤褐色 花柄: 白(花)のみ
葉長: 10mm
葉幅: 5mm
花径: 2mm
採集地: 長野県 長野市 長野市 長野市
採集日: 2011/08/01 採集者: 柳澤衿哉
備考: 長野県環境保全研究所植物標本NAC

図 7: キバナオドリコソウ (*Lamium galeobdolon*)
NAC198571

198584



長野県環境保全研究所植物標本NAC
Herb. Nagano Environmental Conservation Research Institute
No. 198584
ヒメマツバボタン
Portulaca pilosa L.
Flower color: 白(花)のみ
葉色: 葉裏面: 赤褐色 花柄: 白(花)のみ
葉長: 10mm
葉幅: 5mm
花径: 2mm
採集地: 長野県 長野市 長野市 長野市
採集日: 2011/08/01 採集者: 柳澤衿哉
備考: 長野県環境保全研究所植物標本NAC

図 8: ヒメマツバボタン (*Portulaca pilosa*)
NAC198584

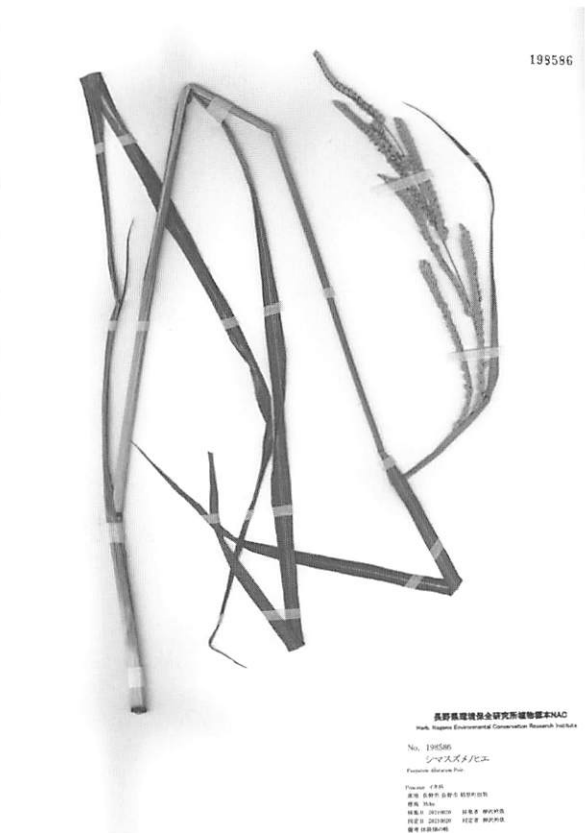


図 9: シマスズメノヒエ (*Paspalum dilatatum*)
NAC198586



図 10: クサキョウチクトウ (*Phlox paniculata*)
NAC198151



図 11: アツミゲシ
(*Papaver somniferum* subsp. *setigerum*) 長野市にて